

Seminar of the vision
for the future , 2040



2040

未来ビジョン出前セミナーin調布

令和2年

1/8(水)

13:30~15:30

(13:00開場・受付)

講師:西澤哲氏 (山梨県立大学人間福祉学部 教授)

演題:「児童虐待をめぐる諸課題と地域の役割」

調布市文化会館たづくり くすのきホール
〒182-0026 東京都調布市小島町2-33-1

定員490名

参加無料

詳細は裏面へ

主催: 全国市議会議長会

2040未来ビジョン出前セミナー in 調布

開催趣旨

政府においては、高齢者人口が最大となる 2040 年頃を見据えた対応が始まっており、地域に密着し、現場に精通する地方自治体が諸般の対策を先導していくことが求められています。とりわけ都市の役割が増大し、多様な民意の集約を本義とする市議会の責務も一段と重要になります。全国の市議会がその責務を十分に果たす上で、議会各人の自己研鑽と活力増進がこれまで以上に期待されます。

本セミナーは、近い将来、わが国の経済社会構造に大きな変容を迫る主要テーマに関して、様々な見解を冷静に吟味しつつ必要な知識、見識、教養を深め、諸課題への対応に備えることを目的として開催するものです。



〈野川の桜〉

プログラム

13:00

開場・受付

13:30

開会

13:40~15:15 講演「児童虐待をめぐる諸課題と地域の役割」

15:15~15:30

質疑応答

15:30

閉会

講師

西澤 哲(にしざわ さとる)氏 山梨県立大学人間福祉学部 教授

昭和 32 年、神戸市生まれ。サンフランシスコ州立大学大学院教育学研究科修士課程終了。現在、山梨県立大学人間福祉学部 学部長・教授。専門は、臨床心理学・臨床ソーシャルワーク。虐待などでトラウマを受けた子どもの心理的なケアを専門として研究活動を行うとともに、児童相談所、社会福祉協議会等の職員への研修を行ったり、社会福祉法人子どもの虐待防止センターの理事や、厚生労働省社会福祉審議会専門委員を務めたりするなど、積極的な活動を行っている。著書に、「子どもの虐待：子どもと家族への治療的アプローチ」（単著、誠信書房）、「子ども虐待への挑戦：医療、心理、福祉、司法との連携を目指して」（共編著、誠信書房）等がある。

お申込先

ご所属の各市議会事務局

お問い合わせ先

株式会社ぎょうせい 2040未来ビジョン出前セミナー事務局

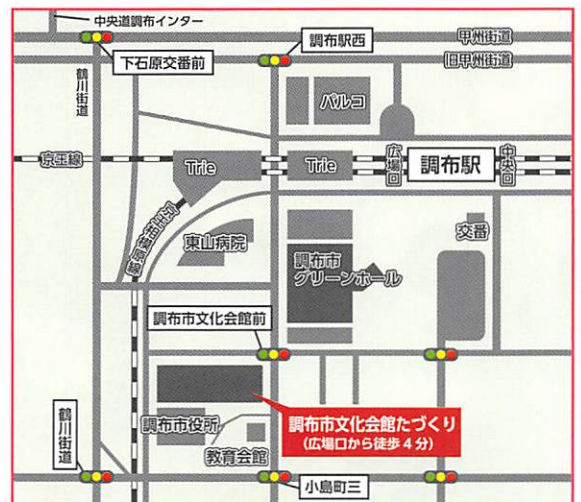
電話:(03)6892-6644

FAX:(03)6892-6931

会場

調布市文化会館たづくりくすのきホール

〒182-0026 東京都調布市小島町2-33-1 電話:(042)441-6111



交通アクセス

公共交通機関をご利用ください

- 京王線** 京王線調布駅 広場口から徒歩 4分
(京王線・京王新線(都営新線乗り入れ)新宿駅から特急で約15分 急行で約25分)
- 地下1階西側の「中央改札」を出て右手地下道を直進、突き当たりを左折し、エスカレーターを上がり地上の「広場口」に出ます。
 - 地上に出て、右に進むと家電量販店があり、その南側の通りをまっすぐ進むと信号のない交差点に出ます。
 - 交差点を左に曲がり、東山病院の前を直進すると「調布市文化会館前」交差点に出ます。
 - 交差点の右前方に見える建物が「調布市文化会館たづくり」です。

『2040未来ビジョン出前セミナー in 調布』

児童虐待をめぐる諸課題と地域の役割

↓
↓
児 22
児童の権利 入札
児童の権利 入札
児童の権利 入札

山梨県立大学人間福祉学部

(心理福祉
セラピー) 現場

西澤哲

- ① 大学(心理専攻)
- ② 情緒障害児の施設に入れた学校復帰を促す施設 in 仙台に「朝顔」

親支援 市町村の重要な役割

とこの子どもの中の虐待をどうにかする
(虐待を)言葉がなかった「セロニル」
「セロニル」→子どもの心の影響 → 不登校
この「セロニル」の認識は
トウゴロの認識、BT
1995 阪神大震災から

③ 7+100 7+100の施設(虐待児)2年

しつけをめぐる混乱：「虐待」と「しつけ」の境目？

中何報告: 子どもの痛みを感じたら虐待

④ 偏見に大阪へ
1990
虐待の文字を
先見の明で、しつけ

- 虐待としつけは全く異質。接点がなく、従って境目無し
- 虐待 = 乱用(abuse) : 子どもに暴力を加えることで親が何らかの心理的利得(欲求の満足等)を得ること
- 例えば...
「言っても聞かない子には叩いてでも教えるのが親の務め」⇒実際には、子どもの行動をコントロールできたという親の達成感・有能感、安心感、満足感
- しつけと虐待が連続体との誤解はしつけに「体罰」(暴力)が含まれるようになったため

子ども乱用

- Child abuse
- alcohol abuse
- drug abuse

交わるセロニル

しつけの本質とは？

- しつけ：しつけの語源の一つは習慣化を意味する「習気」(ジツケ) 仏教用語
- 乳幼児は不快な状態に陥ったら自力では快の状態に戻れない→養育者の手助けが必要
- 養育者の手助けを「しつけ」と呼ぶ(eg. 泣いている時にあやすこと)
- しつけを繰り返すことで、3歳頃、子ども自身の力で回復する能力が形成(習慣化)
- しつけの目的は自律性(セルフコントロール)：自己調節機能(自分を整える力)の形成

最近の「しつけ」は西洋型の training

西洋→アジア 植民地化 啓蒙目的

日本：植民地化と戦後初期に 無批判的に西洋化した

その際、しつけの概念が変化していった？

体罰の有効性の検討

- 体罰には「即時的効果」がある(Gershoff, 2016はこれすら否定)ただし、以下の制約
 - 罰の常時性：行動を止めさせるためには常に必要(他律性)→しつけの本質である自律性と逆
 - 罰への馴化：痛みや苦痛への「慣れ」：同様の効果を得るためには罰の「量」を増やす必要(eg. 言葉による罰から身体への罰へ) 他の痛みにも鈍感になる
 - 自己の痛みの感覚麻痺→共感性の阻害
 - 体罰の有効性は養育者への「恐怖」や「痛み」によるもの。副作用が大きい

動物実験 →

脳の中枢系
(は虫類の脳と互換性がある)

互換性がある

体罰(虐待)を受けた子どもたちの問題

- 自己調節障害：^{自律神経系 ex. 体温 ex. 3才の子 8時間怒り爆発せし} 生理的調節, 感情・感覚調節
 行動調節(注意, 衝動性), 関係性の調節の困難性→適切な「しつけ」がなされていない結果
- 児童養護施設に入所した子どもに観察される「パニック状態」(大暴れ, 自傷行為)
- 保育園で大暴れをする子どもの事例

自傷行為
 cut
 self burning
 全身に切り傷
 (7才)

不快感 self control 欠
 吹き飛ばすために自傷行為(強い痛み)



「うちの中ではおかしな子じゃあ。
 (園)で何が起きているのじゃあ?」

厚労省
 「^{etc}暴力の削減」

Gershoff(2002,2016)の体罰研究

- Gershoff(2002): 体罰(虐待を含まない)は子どもの様々な問題(行動や精神的問題)につながる⇒方法論的問題の指摘
 ↓ 再調査
- Gershoff(2016): 親の行為をスパンキング(子どもの行動変容を目的とした外傷を意図しない平手打ち)に限定し再分析の結果同様の知見(子どもの問題行動13/17に関連. Gershoff(2002)では認められた「即時効果」も否定! ⇒軽度の体罰の有害性)
- 研究の背景にある米国の暴力文化：体罰と虐待の区別；「虐待通告義務法」(1963- 1967)に合わせた「親の体罰権」の法定化

本邦はお尻パンパン (spanking tool 鉄の棒)

虐待はNG
 but
 親の体罰 OK

いかに人権侵害にたいして暴力は許さるべきでない

米 子どもの権利条約は批准して

虐待の影響をめぐる最近の研究報告

- 軽度の体罰も子どもの問題行動につながる(藤原らの疫学研究)
- 体罰や暴言が子どもの脳の発達に与える影響(友田の脳科学研究)：体罰と前頭前野の萎縮；暴言と聴覚野の異常(プルーニングが生じない) 理性育に悪
- 子ども期の身体的虐待→成人期の「体罰肯定観」→子どもへの身体的虐待(PAIIによる西澤らの研究)：Gershoff(2014)でも同様の結果

• [2歳子ども(池田小) 前頭前野 20%小萎縮] → 脳障害、精神障害

• 暴言 赤んぼはあんな言語を(周)で分らないようシブスブする
必要のシブスは切れる。暴言が狂った混乱
言葉と周とを分らない

藤原 疫学研究

友田 脳科学

「しつけ」と「体罰」の混同はいつから？

- ◎日本人はいつから「体罰」を用いるようになったのか？
- ◎明治期以前には体罰はなかった(ルイス・フロイスの「ヨーロッパ文化と日本文化」、渡辺京二の「逝きし世の面影」) (完結)
- ◎白人文化圏(キリスト教文化圏)における「性悪説」と東洋文化圏(仏教文化圏)における「性善説」での体罰に関する「養育観」の違い 原罪
- ◎『愛の鞭』の由来：ヘブライ人への手紙12章第6節（「なぜなら、主は愛するものを鍛え子として受け入れる者を皆鞭打たれるであろう」）
- ◎二つのしつけ：明治期の急速な西欧化(脱亜入欧)による西欧的育児観の取り入れ？
- ◎昭和前期の軍事教育(軍隊の訓練が学校教育に侵入)

ルイス・フロイスは16世紀の

ルイス・フロイス
「日本の親が子どもに
暴力と権威を以て
言葉で説く」

「西洋は不文の法則」

rule of thumb
又、しつけは
親の手にしつけは
合法的
Spare the rod,
spoil your child.

(ルイス・フロイスの原罪観)
war on demon devil

体罰とアタッチメント(愛着)の問題

- ・ アタッチメントとは：子どもが養育者を求める行動(接近, 接触)
- ・ 子どもが不安や恐怖を感じたときに生じる
- ・ アタッチメント行動による安心感の回復→アタッチメントと感情調節能力
- ・ 適切なアタッチメントは健康的な自己像と良い対象像を生む→適切な自尊感情と他者への信頼感
- ・ アタッチメント対象の内在化→道徳性, 共感性 (他者視点)罪悪感の形成
- ・ 体罰→アタッチメント対象への恐怖→アタッチメントの障害

Attachment
attachment

6歳まで解決はしない 幼少期: attachment
アタッチメント障害 → 知らず知らずのうちに関係は築けない

虐待・ネグレクトとアタッチメント

- ・ 「安全の基地」が「恐怖の基地」になることによるアタッチメントの形成不全
- ・ 米国の疫学研究：反応性アタッチメント障害 ⇒ ADHD (おそらく誤診) ⇒ 素行障害 ⇒ 反社会性人格障害
- ・ アタッチメントの問題と非行・反社会性の関連
 - ・ アタッチメントと「善悪」の判断
 - ・ 対象の内在化と共感性・罪悪感
 - ・ アタッチメントとAsperger類似状態
 - ・ 対象の内在化と他者視点(視点獲得)

アタッチメント障害の増えは 発達障害の特性と表裏を成す
増えし子の心

文科省
アスD. ADHD LD
6.3%
↓
むしろ障害の増加

アタッチメントと高機能広汎性発達障害

- アスペルガー障害の中心的特徴を「共感性」の欠如とする仮説
- 共感性の3つの要素：『共感的関心』，『他者視点』(視点獲得)，『共感的苦痛』
- 虐待・ネグレクトによる被害感が共感的関心を阻害
- 暴力被害による感情麻痺が共感的苦痛を阻害
- 内的ワーキングモデルの形成不全と他者視点の欠如

虐待は増えているのか？

- 児童相談所への通告件数：1,101件(1990)から159,850件(2018)
(1011?)
- 増加の捉え方：『顕在化説』と『実質増加説』
- 実質増加説の傍証
↳ 2000年以降から家庭内の暴力
外からの介入が少なくなった
- 社会的養護を必要とする子どもの増加
一時保子の対機児童↑
重症1211件↑
- 児福法28条審判(重症例)の増加
↳ 児童の同意がとれず裁判で強制して施設に送られる
47自治体にも導入可(初の90万人↓)

市民意識の変化?
本来は増えている?
dataとresearch evidenceに状況証拠はあらず
見目の数字は増加

虐待の増加に関連する可能性のある社会指標

- ・ 若年(10代~20代前半)の婚姻に占める妊娠先行結婚の多さ(70%)「~~妊娠結婚~~・~~不妊結婚~~」 実際は良人婚
- ・ 10代の出産数の微増?(中絶率の低下)
- ・ 妊娠先行結婚の離婚率の高さ: 50~70%が3~5年で離婚
- ・ 母子家庭の増加: 80万世帯→120万世帯 32才(母平均) 49才(子平均)
- ・ 若年母子家庭の増加: 母親の平均年齢と子どもの平均年齢の低下
- ・ 母子家庭の53%が相対的貧困線以下の所得 ^{250万/年}
- * 性産業への就労による精神的困難に起因する不適切養育の増加という仮説 「食欠食菜」の中へ含まれる

若年母子家庭への支援

ヒトの子育てはこんなに大変

- ・ 新生児は胎児段階で出生する: 脳の発達を優先した結果としての生理的早産(ポルトマン, A.)→「子宮」に相当する養育環境の必要性(乳児の調節能力の不在)
- ・ ヒトの人口大爆発はなぜ起こったか?
 - ・ 松井孝典(惑星物理学)の「おばあさん仮説」
 - ・ ヒトの赤ちゃんはなぜ泣くのか: チンパンジーの育児との比較(山際寿一京大総長, 霊長類学者)
- ・ 人間は共同繁殖する動物(人類学の見解)
→核家族化や育児の私事化は子育てを阻害する

社会， 家族， 虐待

- 貨幣経済社会の発展が家族の形態を変える：拡大家族から核家族へ
 - 資本の要請が人類に「おばあさん」を生ま出した「神の意図」を無視した!?
- わが国で「家庭」は誕生したのか？
 - 「家制度」の後遺症
 - 单身赴任という『禁じ手』の乱発
 - 情緒的な結びつきによる家族の不在
- 一般家庭における子どもの養育力の低下：そのピークとしての虐待の増加
- 社会にとっての家族の必要性：核家族の3機能(情緒的安定性の回復， 成人間の生理的欲求の満足， 子どもの社会化； Persons, T.)

ア+Uわv+eれは
家族にしろ

家庭と子育は個人は弱る

家庭・子育て再考

- 生物にとって最大の使命は健康的な次世代を生むこと
- SDG'sの観点から見た子育ての意義
- 健康的な社会は健康的な家庭を前提とする
 - 「家庭よりも大事な仕事など存在しない」
- 家庭・子育てを優先する社会構造の必要性：
個人の価値観・努力を超えて

子育てで大事にしたいこと

- ・ 本当の意味での良好なしつけの提供による、「自分を整える力」を育むこと
- ・ 良好なアタッチメントの形成を通して、良い自己イメージと良い他者イメージを形成すること
- ・ それを通して、子どもの好奇心、他者視点、共感性を育むこと
- ・ 過去を受け入れ、現状に満足できることを通して、将来への目標と希望を育むこと
- ・ 子どもという「異邦人」への好奇心を持ち続けること

基礎自治体の役割

- ・ 虐待対応：在宅支援の中心機関である地域支援拠点の整備(児童相談所の家族支援機能を基礎自治体に)；要保護児童対策地域協議会の実質機能化
- ・ 地域の『子育て支援』の拡充：保育所の機能の見直し(野口幽香の『貧民幼稚園』)；学童保育の活性化

40年間+u+24-
メンバー参加音遊会

親の子育て支援の2つは
子どもの育ちに直接関わる

養育者全家庭への支援

滋子
上園

見相²答P.13区入

見相²持²つ²て²の²算²化
~~見相²持²つ²て²の²算²化~~

政府 語学²の²算²化²可²心²
政府の見相²増²え²し²て²い²ら²る²
白石 中核部²見相²作²ら²る²
『²行²列²の²逆²の²見相²』

都²の²見相²を²つ²て² ×

小規模語学²の²3人²を²3人²雇²用²可²
加²え²て²い²ら²る²

望親増²え²可²心²か²?

D.101 上²院²設²立²を²

南²上²院²乳²児²院² 7²年²の²機²関²

『7²年²の²change』

乳²児²院²の²役²割²

府中
西の

ア²ラ²フ²×²2²と²発²達²障²害²

疑²わ²れ²る²ア²ラ²フ²×²2²問²題²も²疑²り²→²場²々²

よ²り²と²ア²ラ²フ²×²2²に²関²心²を²い²け²る²

良²好²な²養²育²環²境²に²お²い²て²ア²ラ²フ²×²2²に²関²心²を²い²け²る²→²発²達²障²害²の²診²断²を²

相談²の²り

ADHD 7²年²は²自²体²の²ア²ラ²フ²×²2²を²い²て²申²は²す²可²

1
95%

成²人²期²に²お²い²て

不²安²な²り² 『²不²安²な²り²障²害²』

後²に²ア²ラ²フ²×²2²の²問²題²に²お²い²て、3~4年²に²お²い²て²正²可²

子²育²の²個²人²の²問²題²に²お²い²て、社²会²の²支²援²を²